

	I 期	II 期		
	4 月	5 月 GW 明け	6 月 7 月	
教育課程のねらい	<p><5 歳> ○年長としての意識を持つ時期 ・新しいクラスに親しむ。 ・自分のやりたい遊びを見つけ意識的に遊ぶ。 ・新しい生活の仕方を知り安心して遊ぶ。</p> <p><4 歳> ○気持ちの安定を図る時期 ・いろいろな遊びに興味を持つ。 園生活を知る。 ・園に慣れ新しいクラスに親しむ。</p> <p><3 歳> ○不安と混乱の中から気持ちの安定を図る時期 ・保育者に親しむ。 登園する楽しみを見つける。 ・園の生活を知る。</p>	<p><5 歳> ○気の合う友だちとの遊びが膨らみ、友だちとのつながりが膨らむ時期 ・共通の目的を持って遊ぶことを楽しむ。 ・探求心を持ち、意欲的に活動する。 ・自分の思いを主張し相手の気持ちをわかろうとする。</p> <p><3 歳> ○自己発揮をするようになり、クラスの中での経験が多い時期 ・保育者と遊ぶことを楽しむ。 ・喜んで登園し、いろいろな遊びに目を向ける。 ・自分の思いを主張する。</p>	<p><4 歳> ○新しい友だちを意識し始める時期 ・保育者や友だちと遊ぶことを楽しむ。 ・自分のやりたい遊びを見つけて遊ぶ。 ・自分の思いを主張し仲間の存在に気づき、仲間を求めようとする。</p> <p><満3歳> ○新しい環境に慣れる時期 ・保育者に親しむ。 ・安心して登園する。 ・保育者と楽しんで遊ぶ。</p>	
子どもの姿	<p>○5 歳 ・保育者や友達と遊んでいることに興味を持ち自分も同じ遊びをする。 ・前年度のクラスの友達と遊ぶ。</p> <p>○4 歳 ・新しい環境に慣れない為、気持ちが落ち着かず何をして遊ぼうかと迷っている。 ・担任のしている遊びを真似して一人で遊ぶ姿が多い</p> <p>○3 歳 ・親と離れるのが寂しく、不安な気持ちを抱えたまま登園する。 ・大人のいる場所に集まり、遊びに興味を示す。</p> <p>○異年齢 ・低年齢児を保育室まで連れていく。 ・年長児を頼り、手を繋いででもうとうと安心する。</p>	<p>○5 歳 ・自分の好きな遊びを見つけ同じ遊びを何日間も継続して遊ぶ。 ・道具の使い方を工夫する。 ・友達や保育者と言葉でのやり取りを楽しみながら自分の思いを伝えようとする。</p> <p>○4 歳 ・少しずつ視野が広がり、友達がしている遊びに興味を持ち色々な遊びを楽しむ。</p> <p>○3 歳 ・自分のしたい遊びを見つけ友達の輪の中に入るが、ひとり遊びをする。 ・まだまだ担任や保育者の側で遊ぶ子どももいる。</p> <p>○満3歳 ・泣いて登園する。 ・保育者の声掛けにより、遊びに興味を持ち、土、水などの感触に慣れようとする。</p> <p>○異年齢 ・4月と同様、手をつないで一緒に登園する。 ・次に園庭に出てくる学年の為にきれいに片付けるなど、保育者の声掛けにより意識する姿が見られる。</p>	<p>○5 歳 ・園庭の環境に併せ、その時に出来る遊びを友達と楽しむ。 ・その場にあるものを工夫して使い遊ぶ。</p> <p>○4 歳 ・机やイスなど、遊びの道具の場所を知ると、自分や友達と一緒に用意し遊ぼうとする。 ・自分の好きな遊びに集中する。 ・どんな事にも興味を持ち、実際にやってみようとする。</p> <p>○3 歳 ・目的を持ち、友達や保育者と関わりながら遊ぶ。 ・机やイスなど、遊びの道具の場所を知ると、保育者と一緒に用意し遊ぼうとする。</p> <p>○満3歳 ・年長児がしていた遊びを真似しようとする。水や泥、寒天など感触を楽しむ。</p> <p>○異年齢 ・手をつないで一緒に登園する。 ・次に園庭に出てくる学年の為にきれいに片付けるなど、保育者の声掛けにより意識する姿が見られる。</p>	
園庭の願い	<p>わくわくうきうきする園庭創り ・不安な気持ちを抱え登園してきた子ども、期待を膨らませ登園してきた子ども、楽しい気持ちで保育室に向かえるようになってほしい。</p> <p>・園庭にあるものに興味を持ってほしい。 (目を向けてほしい)</p> <p>・身体を思い切り動かしたり、園庭でのびのびと遊ぶことによって不安な気持ちだった子ども園庭で遊ぶと楽しい！と思いついて幼稚園生活を過ごせるようになってほしい。</p>	<p>わくわくうきうきする園庭創り ・幼稚園に行き、今日は何して遊ぼうかな、何が置いてあるのかな、と期待を持ち、子どもたちが好きな遊びを見つけれられるようになってほしい。</p> <p>・子ども達自身が、園庭にあるものに気づいたり、興味を持てるようになってほしい。</p>	<p>わくわく・うきうきする園庭を子ども達と一緒に創る ・子どもたちが自分でイメージした好きな遊びが出来るように保育者が全て準備せず、使いたい素材を探し、集めたりするなど、保育者と一緒に準備ができるようになってほしい。</p> <p>・ままごとや色水の机では片付けの時に砂や泥を落として布巾で拭くなど、次に遊ぶ相手のことを思いやる気持ちを持ってほしい。</p> <p>・友だちを意識し始める姿もあるので、子ども達がしていた遊びを紹介したり、飾ったりして、友だちの遊びに興味を持ち、自分たちのやりたい遊びを広げられるようになってほしい。</p>	<p>わくわく・うきうきする園庭を子ども達と一緒に創る ・今まで常時出していた机などを出さず、子どもたちが必要とした時に一緒に準備し、道具の置き場所を知らせ、今後自分たちで用意ができるようになってほしい。</p> <p>・子ども達のしている遊びや作ったものを紹介する(飾る)ことで子ども達同士で遊びを広げたり、さらに深められるようになってほしい。</p>
具体的な内容・環境構成	<p>・登園時に全員が見られる場所にみつけたを置く。 ・プランターや新で道を作る。 ・ままごとや色水、花摘み、コマ、サーキットなどコーナーをつくっておく。</p>	<p>・みつけたでは子ども達がなにこれ？と見に来るような掲示をする。 ・満3クラスまで薪で☆を作り、道を作る。 ・園庭に出て遊びたい！と思えるようにままごとや色水、花摘み、コマ、サーキットなどのコーナーをつくっておく。</p>	<p>・雨の日でもみつけたが見やすいように傘を吊るしておく。 ・草花の生長や生き物など継続性のあるものを紹介する。 ・雨の音が聞こえるように缶やボウルを置く。 ・水たまりができたときは、葉っぱを浮かべたり、水たまりの周りを薪で囲い池みたいにしておく。 ・ままごとや色水、花摘み、コマ、などコーナーをつくっておく。 ・水遊びが楽しめるよう、親水広場に水遊びグッズを置いておく。 ・水遊びの導入として、水がかかっても気持ちよいと思えるように暑い日はミストをつけておく。</p>	<p>・ツリーハウスを各学年おろす為、危なくないようにままごとコーナーを少し門側へ寄せる。 ・七夕製作コーナーを作る。 ・色水遊びから布染をし、天の川を飾る。 ・季節や行事に沿ったものをみつけたで紹介する。 ・朝顔のトンネルになるようにプランターを動かす。 ・子どもたちが自分で遊びの道具(机・椅子など)準備して遊べるように机やイスは片付けておく。 ・季節感を味わえるように風鈴をぶら下げておく。</p>
環境の再構成	<p>・みつけたの位置を変える。 ・導線に置くものの置き方を工夫する。 ・年中玄関へ向かうまでの道が狭そうだったため、ままごとの棚の位置を変える。(圧迫感をなくす) ・子ども達がサーキットの変化に気づき、やりたい！と思う気持ちを持てるように組み方を変える。</p>	<p>・導線に置くものの置き方を工夫する。(特に満3歳のクラスへ行く導線) ・満3歳が始まるにあたり、登園しやすいようにままごとの棚の位置を変える。 ・サーキットでは、学年に合わせて階段の高さを変えたり、木のボックスの間隔を調整する。 ・門に吊るしていた桜のカーテンを葉っぱに変える。(季節を感じる) ・ままごとの机に作ったものを置いたり、自然物を用意しておく。 ・満3歳が園庭で遊ぶ際はラティスで区切りスペースを分けて落ち着いて遊べるようにする。</p>	<p>・年長組が出てくる際に子ども達が自分で遊びの準備ができるようにわざとコーナーを作らない。(様子を見ながら…) ↓ ・ごっこ遊びがあまり発展しない姿があった為、棚で区切り、コーナーを作るが机などは置かない。</p>	<p>・雨天が多かった為、大きな環境の再構成はないが、一緒に遊びの準備したり、子ども達の遊びが充実するような声掛けを大事にした。</p>
振り返り・考察	<p>○みつけた ・置く場所、物の掲示の仕方でも子どもの興味が変わるが、その場に大人(保育者や保護者)の声掛けが必要。 ・自分の経験したこと(見たことのあるものなど)は興味を示す。</p> <p>○導線 ・毎日続けることで、期待を持ち登園したり、気持ちを切り替えるきっかけになっていた。 ・保護者にアプローチすることで保護者から子どもへの声掛けが増えた。 (みつけたも同様)</p> <p>○遊び ・それぞれのコーナーで遊びが見えるように作ったものを置いておくと、興味を持ちすぐに遊び始める子が多かった。 ・3 歳児は保育者と一緒に遊ぶ事でどんな遊びがあるのかを知っていく様子があった。 ・5 歳児は今までの経験が豊富な為、道具の使い方を理解して上手に使いこなす。</p> <p>○保育室との連携(準備) ・保育者がクラスで毎日園庭の出来事を話すことによって、園庭へ出てきたときの子どもへの反応が変わる。</p>	<p>○みつけた ・習慣化され、大人の声掛けがなくても興味を示し、見に来るようになった。 ・子どもたちが興味を示すことで、保護者も一緒に見て子どもと会話する機会が増えた。 ・置く場所、物の掲示の仕方でも子どもの興味が変わる。</p> <p>○どう(導・動)線 ・保育者が仕掛けをつくらなくても、園庭にある物に興味を持ち、自ら楽しみを見つけた保育室へ向かう。</p> <p>○遊び ・自分の好きな遊びを見つけて保育者や友達と一緒に楽しんで遊ぶ。 ・森に行ったときに園庭でしていた遊びを園外でもイメージを膨らませて遊んでいた為、園庭での経験が生かされている。</p> <p>○保育室との連携(準備) ・保育者がクラスで毎日園庭の出来事を話すことによって、園庭へ出てきたときの子ども達の反応が変わる。</p>	<p>○みつけた・どう(導・動)線 ・同じ物を継続して紹介するとより興味をもつ。 ・みつけたで、園庭にあるものを紹介する事で、子どもたちの興味関心が高まり、探求心や新しい物に気づく力が育っている。 ・過去にみつけたで紹介した植物を毎日観察してからクラスへ向かう。 (継続する力が身に付き始めている) ・雨の日は、保護者と登園する子はあまり見ずに保育室へ向かうが、バス、電車コースの子たちは、誰にも急かされることなく自分の気の済むまでゆっくり見れるので、よく見ている姿がある。 ・こちらが意図して導線を創らなくても園庭にある全ての物が子どもたちにとって『どう(導・動)線』となっている。</p> <p>○遊び ・花を摘みすぎないなど、友達の事を思いやる事が出来るようになってきた。 ・3 歳児は特に自分のやりたい遊びがより明確になった事で遊ぶ道具を準備する。 ・元々園庭にあるものの特性を生かし、そのものをどう使えばより楽しくなるのか友達と試行錯誤して遊ぶ。保育室で考えてきた遊びを形にするため、道具を上手に組み合わせる。 ・目的をもって友達や保育者と遊びこむ姿がある。 ・4 歳児が他学年を思いやって自然災害後、園庭の整備の手伝いをしてくれた。 ○保育室との連携(準備) ・園庭に出てくる学年によって関わり方を変える必要性がある…(声かけなど) ・みつけたに興味を持つ子が増えたのは園庭に出たときに担任の先生がクラス全員にもう一度一緒に見て話をしてくれているからなのか…?</p>	<p>○みつけた・どう(導・動)線 ・継続性のあるものを紹介し、植物の生長を楽しむようになった。 ・雨の日でも葉っぱについている傘を観察したり、水たまりで遊ぶなど自分達で楽しみを見つけたがクラスへ向かうようになった。</p> <p>○遊び ・遊びひとつにしても保育者の関わり方で遊び方が変わる。 ・「やりたい！！」という気持ちに保育者がどのように寄り添うかで子どもたちの達成感や満足感、充実感が変わってくる。 ・保育室でどの様に遊んでいるかで、園庭で遊ぶ姿が変わる。(保育室で目的を持って遊んでいるか、そうではないか) ↓ ・園庭の遊びが保育室へと繋がっていく事もあるが保育室で遊ぶ時間が長い為、保育室からの影響の方が大きい。</p> <p>○保育室との連携(準備) ・アンケートを行うことで、今後の連携の取り方を考えられるきっかけになる。</p>
次の課題	<p>・ねらいや物よっての掲示の仕方を工夫する。 ・経験していないことへのアプローチをどうしていくか…。 ・赤組への導線。 ・いつまで花道をするのか…。 ・毎日何か仕掛ける必要があるのか。 ・保育室と園庭の連携。</p>	<p>・保育者が用意しておく事によって、花の摘み方や、使える素材を見つける力が育ちにくい。</p> <p>・毎日みつけたの内容を考える難しさ。 ↓ ・植物の生長など継続性のあるものや、子どもが見つけてきたものの紹介。 ・大きな仕掛けはないが、子どもたちに気づいてもらえるようなさりげない工夫。</p>	<p>・みつけたをきっかけに園庭にあるものや自然現象などに興味を持ち、ゆっくり見ている子に対して、早く部屋に入るよう声を掛けがち。 ↓ ・その子が今、興味を持っていること、心を動かされている気持ちに寄り添い、保育室へ向かうまでの時間をゆっくり過ごせるように担任との連携も取る。</p>	<p>・まだまだ担任と遊びの共有ができてない。 ・各保育室でどんな遊びが流行っているのか、という事も把握しきれていない。 ・ツリーハウスやだしランド、ポルダリングなどの利用の仕方。 ・アンケートを元にみんなのアイデアを取り入れ、子ども達や保育者全員と一緒に園庭を創っていきたい。(園庭環境の準備や再構成、素材を集めたり、園庭の整備など)</p>